

国の戦略、調査研究事業及び 国内外の残留基準値比較の概要

平成26年10月28日

消費・安全局 植物防疫課

阿部清文

農林水産省

本日の講演内容

1. 最近の情勢

2. 農産物輸出促進のための防除体系の確立について

3. 輸出相手国の残留農薬基準値の調査について

1. 最近の情勢

「日本再興戦略」改訂2014の概要

改訂の基本的考え方

- この1年間、「3本の矢」によってもたらされた変化を一過性のものに終わらせず、経済の好循環を引き続き回転させていく。
- そのため、日本の「稼ぐ力＝収益力」を強化。同時に、「日本再興戦略」で残された課題（働き方、医療、農業等）にも対応。
- デフレ状況から脱却しつつある今こそがラストチャンス。企業経営者や国民一人一人に、具体的な行動を促していく。

1. 日本の「稼ぐ力」を取り戻す

改革に向けての10の挑戦

「企業が変わる」～「稼ぐ力」の強化

- ① 《コーポレートガバナンスの強化》
- コーポレートガバナンス・コードの策定
- ② 《公的・準公的資金の運用の在り方の見直し》
- GPIFの基本ポートフォリオ、ガバナンス体制の見直し
- ③ 《産業の新陳代謝とベンチャーの加速、成長資金の供給促進》
- 大企業を巻き込んだ支援、政府調達への参入促進、I/I等の供給

「国を変える」

- ④ 《成長志向型の法人税改革》
- 数年で法人実効税率を20%台まで引き下げることを目指す
- ⑤ 《イノベーションの推進とロボット革命》
- 革新的な技術からビジネスを生み出すナショナルシステム
- ロボットによる社会的課題の解決と新たな産業革命

2. 担い手を生み出す～女性の活躍促進と働き方改革

⑥ 女性の更なる活躍促進

- 学童保育の拡充
- 女性就労に中立的な税・社会保障制度等の実現

⑦ 働き方の

- 働き過ぎ防止
- 時間ではな
- 多様な正社員
- 予見可能性の

・オールジャパンの輸出戦略を推進するため、6月に創設する「輸出戦略実行委員会」を司令塔とし、牛肉、茶、水産物等の分野について品目別輸出団体を整備する。

し
社従業員の受入れ
財の受入れ
留学生の活躍

3. 新たな成長エンジンと地域の支え手となる

⑧ 攻めの農林水産業の展開

- 農業委員会・農業生産法人・農業協同組合の一体的改革
- 酪農の流通チャネル多様化
- 国内外とのバリューチェーンの連結（6次産業化、輸出の促進）

⑨ 医療・介護・福祉サービスの提供

- 非営利ホールディングカンパニー型法人制度（仮）の創設
- 個人への健康・予防インセンティブの付与
- 保険外併用療養費制度の大幅拡大

成長の成果の全国波及

地域活性化／中堅・中小企業・小規模事業者の革新

- 地域活性化施策をワンパッケージで実現するプラットフォームの構築
- 中堅・中小企業・小規模事業者によるふるさと名物応援と戦略産業の育成
- 地域ぐるみの農業の6次産業化、酪農家の創意工夫、魅力ある観光地域づくり
- PPP/PFIを活用したインフラ運営の実現

地域の経済構造改革

- 都市機能や産業・雇用の集約・集積とネットワーク化
- 東京への人口流出の抑制
- ⇒ 司令塔となる本部の設置、政府一体の推進体制の構築

農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略

平成 2 5 年 8 月

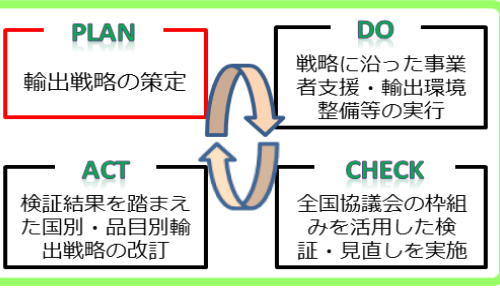
農林水産省

国別・品目別輸出戦略

農林水産物・食品の輸出額を

2020年までに1兆円規模へ拡大

1兆円



約4,500億円

水産物 1,700億円
加工食品 1,300億円
コメ・コメ加工品 130億円
林産物 120億円
花き 80億円
青果物 80億円
牛肉 50億円
茶 50億円

【2012年】

ブランディング、迅速な衛生証明書の発給体制の整備など

「食文化・食産業」の海外展開に伴う日本からの原料調達増加など

現地での精米や外食への販売、コメ加工品（日本酒等）の重点化など

日本式構法住宅普及を通じた日本産木材の輸出など

産地間連携による供給体制整備、ジャパン・ブランドの育成など

新規市場の戦略的な開拓、年間を通じた供給の確立など

欧米での重点プロモーション、多様な部位の販売促進など

日本食・食文化の発信と合わせた売り込み、健康性のPRなど

中間目標
7,000億円

水産物 2,600億円
加工食品 2,300億円
コメ・コメ加工品 280億円
林産物 190億円
花き 135億円
青果物 170億円
牛肉 160億円
茶 100億円

【2016年】

EU、ロシア、東南アジア、アフリカなど

EU、ロシア、東南アジア、中国、中東、ブラジル、インドなど

台湾、豪州、EU、ロシアなど

中国、韓国など

EU、ロシア、シンガポール、カナダなど

EU、ロシア、東南アジア、中東など

EU、米国、香港、シンガポール、タイ、カナダ、UAEなど

EU、ロシア、米国など

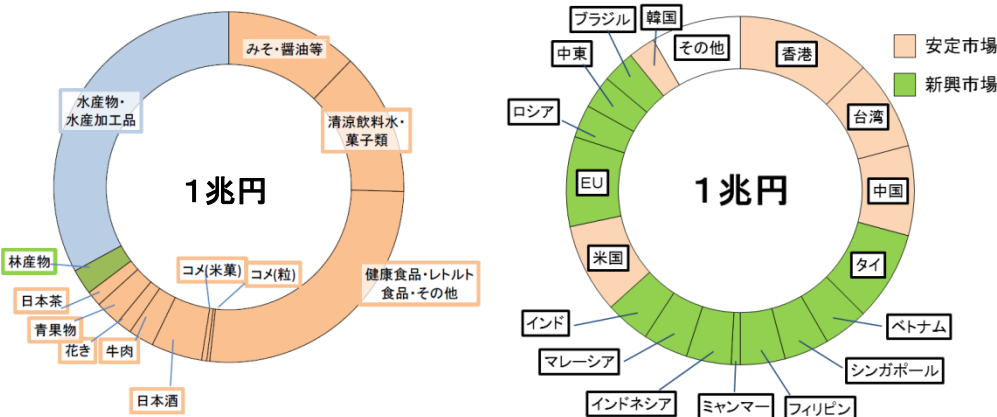
水産物 3,500億円
加工食品 5,000億円
コメ・コメ加工品 600億円
林産物 250億円
花き 150億円
青果物 250億円
牛肉 250億円
茶 150億円

【2020年】

○ 農林水産物・食品輸出の方向性①：重点国・重点品目

- 日本「食」への支持を背景に、日本「食」の基軸となる食品・食材を、食市場の拡大が見込まれる国・地域へ輸出することにより、2020年までに1兆円目標を達成。

2020年品目別・国別輸出額イメージ



● 重点品目

- ・水産物
- ・加工食品(みそ、醤油、清涼飲料水、菓子類、牛乳・乳製品、即席麺やレトルトカレー等のコンビニエンス・フーズなど)
- ・コメ・コメ加工品(包装米飯、日本酒含む)
- ・林産物
- ・花き
- ・青果物
- ・牛肉
- ・茶

● 重点国・地域

- ・新興市場:
EU、ロシア、ベトナム、インドネシア、インド、フィリピン、マレーシア、タイ、シンガポール、ミャンマー、中東、ブラジル
- ・安定市場: 香港、米国、台湾、中国、韓国

○ 農林水産物・食品輸出の方向性②：3Es

- 市場の状況に応じ、原発事故の影響の最小化を起点に、①相手国が求める認証・基準への対応や基準のハーモナイゼーション等の輸出環境の整備(ENTER)、②商流の確立支援(ESTABLISH)、③商流の拡大支援(EXPAND)の3つのE施策を集中的に実施。

原発事故への対応

START

輸出環境の整備

STEP1

商流の確立

STEP2

商流の拡大

STEP3

○輸入規制措置の緩和・撤廃に向けて、諸外国・地域に正確な情報を提供した上で、科学的根拠に立った対応を強く要請
○海外メディア等の活用による日本食の安全性のPR

○相手国が求める認証・基準への対応・基準のハーモナイゼーション
○規制等情報の提供
○ハラール、GLOBAL G.A.P.等、世界の食市場において通用する認証の取得に対し、十分かつきめ細やかに支援

○情報提供を始め、商談会、海外でのマッチングの場、各種イベントへの支援等総合的なサポート体制を充実・強化(ジェットロ等)
○共同輸送・混載による物流費の抑制
○産地間連携による日本の農林水産物を年間を通じて安定的に供給できる体制を構築

○農林漁業成長産業化ファンド、Made BY Japanとの有機的な連携

輸出戦略実行委員会

輸出戦略実行委員会開催要領

第1 趣旨

世界の食市場は、今後10年間で340兆円から680兆円に倍増すると見込まれており、我が国の農林水産物・食品産業の発展のためには、この成長を取り込むことが不可欠である。こうした観点から2020年に農林水産物・食品の輸出額を一兆円規模に拡大するという目標が掲げられている。この具体化に向け、農林水産省では、現場の意見等も踏まえつつ、重点品目ごとに目標額や重点品目を定めた「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」（以下「輸出戦略」という。）を2013年8月29日に策定・公表した。今後、一兆円目標に向け本戦略に基づいた取組を着実に実行し、PDCAサイクルに基づきながらオールジャパンでの輸出拡大に取り組んでいくこととしている。

こうした考えの下、輸出戦略に基づく取組の検証や、オールジャパンでの実効性ある輸出拡大に向けた取組体制等について議論を行うため、農林水産物等輸出促進全国協議会（以下、「全国協議会」という。）の下に各重点品目の団体等で構成する輸出戦略実行委員会（以下「実行委員会」という。）を設置する。

第2 構成

- 1 実行委員会の委員は全国協議会に参加する関係府省及び事業者団体等により構成される。
- 2 必要に応じて委員を追加・変更できることとする。
- 3 実行委員会の下に、重点品目ごと、主要テーマごとに別紙のとおり部会を設置し、品目ごとの輸出戦略に基づく取組の検証等を行うこととする。
- 4 地方ブロック意見交換会（全国9か所）を開催し、現場の意見を把握し、実行委員会の議論に活用する。

第3 運営

- 1 実行委員会の議事は、個別企業の活動や販売戦略に関わる内容も含まれることから、原則非公開とするが、委員全員の了解が得られる場合には、公開とすることができる。
- 2 実行委員会の庶務は、農林水産省食料産業局輸出促進グループが行う。

農林水産物等輸出促進全国協議会

輸出戦略実行委員会

地方ブロック意見交換会

品目部会

水産部会

コメ・コメ加工品部会

花き部会

青果物部会

牛肉部会

茶部会

林産物部会

テーマ別部会

物流部会

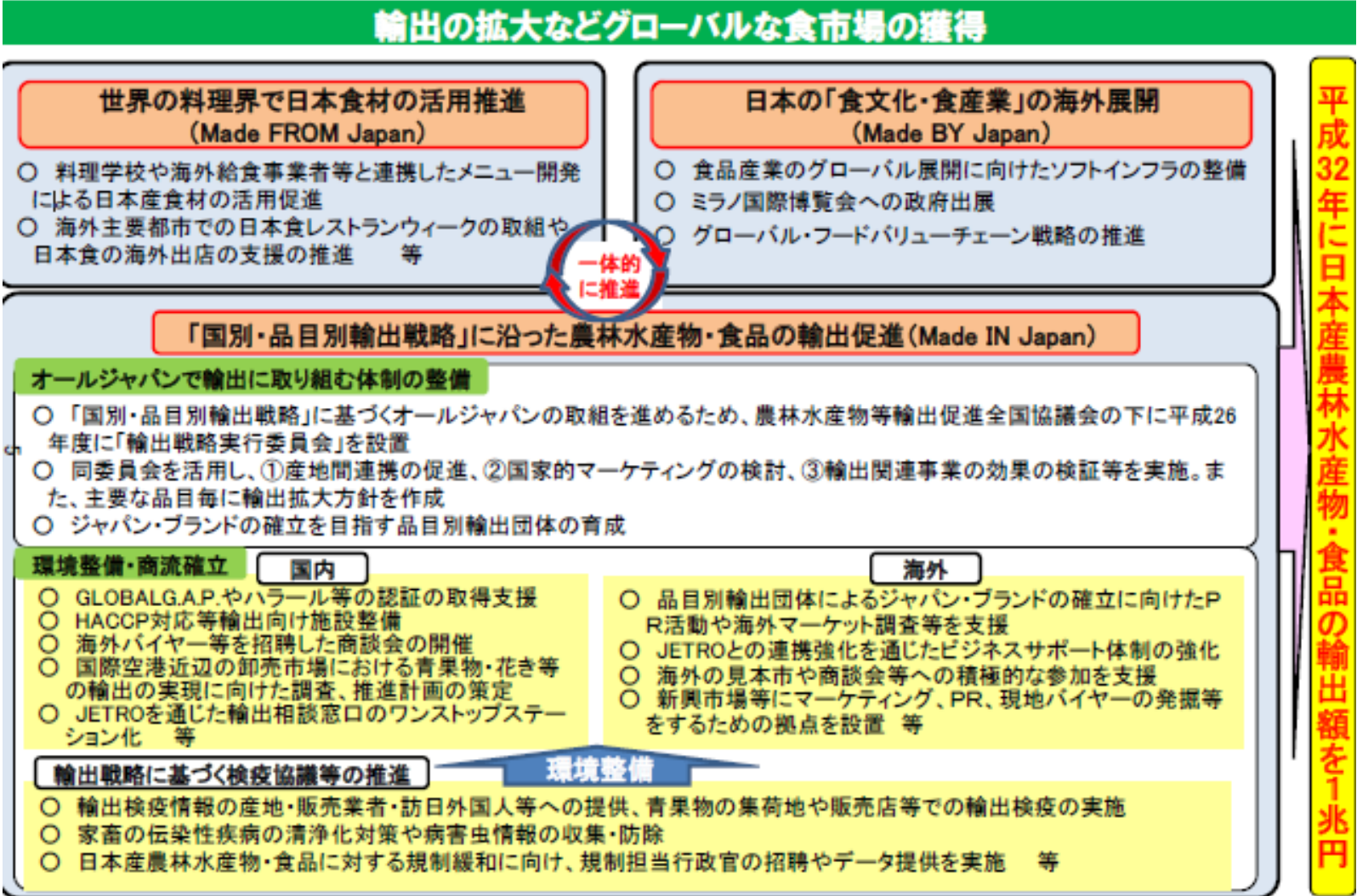
輸出環境課題部会

FSMA部会

ハラール部会

卸売市場部会

農林水産省が取り組む主な輸出促進対策



平成32年に日本産農林水産物・食品の輸出額を1兆円

ホームページアドレス

1. 日本再興戦略

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/saikou_jpn.pdf

2. 農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略

http://www.maff.go.jp/e/export/kikaku/kunibetsu_hinmoku_betsu_senryaku.html

3. 輸出戦略実行員会

http://www.maff.go.jp/j/shokusan/export/e_kikaku/26zikkou.html

2. 農産物輸出促進のための防除体系の確立について

農産物輸出促進のための防除体系の確立

我が国の病虫害防除を巡る状況

産地の取組例

- 静岡県等
→ 安全安心・輸出戦略(茶)
- 青森県
→ りんごの病虫害防除対策

- ・ 我が国には多様な病虫害が発生
- ・ 緑茶など、西欧諸国にはない多様な農産物を生産するため、輸出先国で登録のない農薬で防除

輸出先国の規制で、使用可能な農薬は限定

通常の栽培体系では、登録のない農薬が検出され輸出が困難

輸出に向けた課題

- 輸出先国で登録のない農薬等の代替又は使用低減技術の確立

農産物輸出促進のため

新たな防除体系の確立、実証

主要品目で防除体系を確立

- ・ 品目(りんご、緑茶、いちご、なし等)
- ・ 検討する内容(代替農薬の導入、既存農薬の使用時期変更、天敵及びトラップ等)

薬剤抵抗性病虫害の発生産地で防除体系の確立

広域な防除体系の確立
(フェロモンの導入、新たな天敵調査、導入等)

諸外国での輸出の取組等を収集

新たな防除体系の確立により、① 我が国農産物の海外への輸出促進、
② 産地の病虫害被害の軽減

防除体系の見直しによる我が国農産物の輸出促進（例）

病害虫の発生、防除時期

現
状

茶の防除体系（従来より農薬40%減）

3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月

収穫

収穫

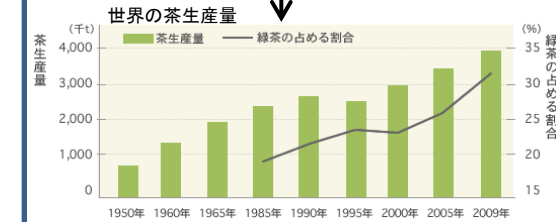


輸出

年間防除のうちEUの農薬残留基準値を超過する可能性があるもの

代替技術の導入による防除体系の見直しと農薬使用の削減、代替

農薬残留基準値の比較				単位 : ppm
農薬	EU	日本		
A	0.05	10		
B	0.02	50		
C	0.1	50		



EU

農業の状況は各国で異なり、EUでは茶の栽培が無く、農薬残留基準値が極めて厳しいため、輸出に際しての大きな障壁となっている。

EUをはじめ、世界の市場で緑茶の需要は高いが、輸出できない

輸
出
対
応
型
の
防
除
体
系

交信攪乱剤、植生管理、粘着トラップ、防蛾灯などを代替技術として導入

チャノコカクモンの防除

チャノコカクモンハマ、チャハマキの防除

カンザワハダニの防除

チャノキイロアザミウマの防除



有色防蛾灯



交信攪乱剤



天敵の利活用



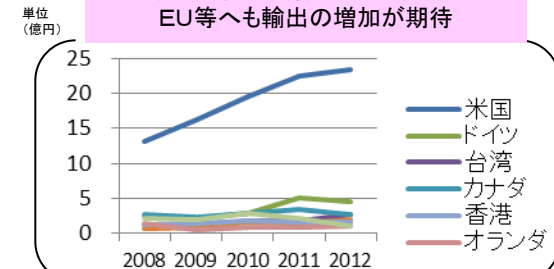
色彩粘着トラップ

輸出

EU

輸出拡大！

日本と基準値が類似する米国並に、EU等へも輸出の増加が期待



- 1 輸出戦略品目には同様の病害虫が発生しており、新たな防除体系の活用期待
- 2 農薬の低減により、国内市場へもアピール可能

茶の輸出目標(2020年) 現在50億→150億達成

農産物輸出促進のための防除体系の確立

1 事業期間：平成26～28年度

2 対応品目

(1) 生果実（りんご（有袋、無袋）、柑橘、なし及びいちご）

(2) 茶（煎茶、玉露、かぶせ茶及び抹茶）

3 輸出相手国

(1) 生果実（シンガポール、タイ、ベトナム、インドネシア、マレーシア、カナダ、米国、EU、ロシア、中東（UAE、サウジアラビア、カタール、バーレーン、クウェート、オマーン）、台湾、香港）

(2) 茶（EU、ロシア、米国、香港、台湾、シンガポール）

3. 輸出相手国の残留農薬基準値の調査について

3. 輸出相手国の残留農薬基準値の調査について

残留農薬基準値に関する情報

http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/g_zanryuu/kijyunti.html

茶(殺虫剤)							使用回数		注) 日本の値に比べて輸出相手国の値が低い場合は赤色						2013/12/31 現在		
薬品名	有効成分	有効成分	種類	対象病害虫	希釈倍率	収穫前日数	本剤	有効成分	日本 (ppm)	Codex (ppm)	USA (ppm)	EU (ppm)	Hong Kong (ppm)	Russia (ppm)	Singapore (ppm)	Taiwan (ppm)	
Mr.ジョーカ水和剤	シラフルオフェン20.0%	silafuofen	ヒレスロイド`系 ヘレトリン系	チャノコクモンハマキ、チャハマキ、チャノホソガ、ヨモギ`エダシヤク、チャノミドリヒメコバ`イ、チャノキイロアザミウマ	2000	21	2	2	80	－	－	－	－	－	－	－	
アーテント水和剤	アクリナトリン3.0%	acrinathrin	ヒレスロイド`系 ヘレトリン系	ヨモギ`エダシヤク、チャノキイロアザミウマ、カンザワハダニ、チャノミドリヒメコバ`イ	1000	14	3	3	10	－	－	0.05	－	－	－	2	
アクトラン粒水溶剤	チアメキサム10.0%	thiamethoxam	ネオニコチノイド`系	チャノキイロアザミウマ	2000	7	1	1	20	20	20	20	20	－	20	1	
				チャノミドリヒメコバ`イ	2000～3000												
				コミカンアブラムシ、ツマク`ロアオカスミカメ	3000												
アクトレック乳剤	ヒリミホスメチル45.0%	pirimiphos-methyl	有機リン系	コミカンアブラムシ、カンザワハダニ、ツマク`ロアオカスミカメ	1000	7	1	1	10	－	－	0.05	－	0.5	－	0.05	
アグリメック	アバメクチン1.8%	abamectin	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	チャノナガサビダニ、チャノキイロアザミウマ、カンザワハダニ、チャノホソガ、チャノホコリダニ	1000	7	1	1	1	－	0.01	0.02	－	－	－	－	
アグロスリン水和剤	シベルメトリン6.0%	cypermethrin	ヒレスロイド`系 ヘレトリン系	ヨモギ`エダシヤク、チャノキイロアザミウマ、チャノミドリヒメコバ`イ	1000～2000	14	1	1	20	15	－	0.5	15	－	15	2	
				チャノコクモンハマキ、チャハマキ、チャノホソガ`	1000												

掲載情報

1 重点品目：生果実（りんご、柑橘、なし）及び茶

2 輸出相手国

(1) 生果実（シンガポール、タイ、ベトナム、インドネシア、マレーシア、カナダ、米国、EU、ロシア、中東（UAE、サウジアラビア、カタール、バーレーン、クウェート、オマーン）、台湾、香港）

(2) 茶（EU、ロシア、米国、香港、台湾、シンガポール）